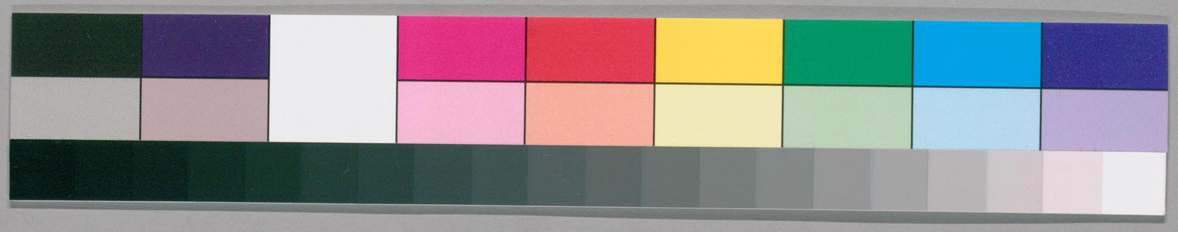

4
457

中毒集説稿

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号　特7-757

28.11.27

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757

ガラス使用

中毒集説

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号 特7-757
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号 特7-757

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号　特7-757

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号 特7-757

ガラス使用

毒菌

由讀ヽ河ヽ笑蕈ヲ食ヒ舞ヲ僛ス
歴年ノ小龍ニ云菌状学生桐樹枯ル滿人
得此菌ヲ煮ヲ食ヘ之ヲ須臾病ム笑ヲ止メ不ニ把テ
服死ル者一ト痴殊ナ且笑ニ殺人毒之内露
余曾聞ク有ニ此物見果ニ伝シ食ノ小韓ン山中村落
庸医ノ書ニ付シ儀加ヘヲ論セリ為ニ業其毒之害矣
寅歳有怪無ク中ニ投リン称ル行ル也
目録毒菌ヲ和名加ノ紙ヲ官報記載ノ

中毒

通常中毒症ヲ簡易ニ記スルヤ其毒作用ヲ分テ三種トス刺戟性、麻醉性、区別難キ性ハ不分类性

刺戟性即チ腐蝕毒　第一（酸类）即チ硫酸、硝酸、格魯児水素酸、蓚酸ナリ此等ノ中毒症ニハ炭酸曹達、炭酸剥篤亜私、炭酸麻偪涅失亜及ヒ炭酸石灰、或ハ満俺、石灰、等ノ如キ亜児加里ヲ水中ニ溶解シ消毒薬トシ用ユ蓚酸ニハ殊ニ石灰水ヲ賞用スベシ○第二（亜児加里类）即チ苛性加里、曹達、強安母尼亜水、土类、重土、石灰、等ノ中毒症ニハ醋或

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757

ガラス使用

ハ檸檬汁ヲ用ユレバ中和塩ヲ合成シ消毒剤トナリ又阿剌蔑油、苡麻油ハ亜児加里ト抱合シテ石硷ニ化シ毒勢ヲ減耗ス○分三（猛汞）此中毒ニハ蛋白又ハ麵粉ニ水ヲ混和シタルヲ賞用ス○分四（砒石）中毒ニハ含水過酸化鉄ヲ最良トス又過硫酸鉄水或ハ格魯児化鉄丁幾ニ硫砂水ヲ加フルモ亦驗アリ又含水過酸化鉄及ニ過硫酸鉄水ノ一ピイ（ピイ）ント宛ヲ与フベシ、含水過酸化鉄ヲ速ニ且適宜ニ用ユ又薬毒験査家ハ此中毒ニ解毒剤トノ麻倨渥矢亜亦効ヲ奏ス

ト云者アリ○分五（硫酸銅）及ニ（錫塩類）ノ中毒ニハ蛋白、乳汁、及ニ水ヲ混和シタルヲ（粉）ヲ適宜ニ与フベシ○分六（吐酒石）中毒ニハ没食子或ハ櫛皮浸及ニ鞣酸水ヲ多服シ後阿片ヲ用ニ其疼痛ヲ緩和シ胃腸ヲ鎮静スベシ○分七（醋酸鉛）即チ鉛糖中毒ニハ硫酸麻倨渥矢亜ヲ消毒剤トス此品ハ鉛糖ト抱合ノ溶解セス且緩鈍性ノ硫酸鉛ヲ生ス○分八（硫酸鉄）即チ緑礬、硫酸亜鉛即チ皓礬ノ中毒ニハ稀釋炭酸曹達ナリ、亜ヲ仁茶ハ腐蝕毒ノ良劑トス○分九（硝酸銀）中毒ニハ食塩ヲ用ユ

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号 特7-757
ガラス使用

レバ格魯児銀ニ化シソノ毒性ヲ減耗ス又乳汁、
ヲ内服スルモ亦能ク胃ヲ補助スルノ効アリ○分
十(燐)中毒ニハ矢子吐劑ヲ最良トス其他呕吐セ
ザル中毒症ニモ的當ス又尸倨溏矢亜及ヒ粘滑
羙ノ浸劑ヲ多量且迅速ニ投用スベシ○分十一
沃顛中毒ニハ澱粉ヲ良トス然モ沃顛鋪ニハ此
品効ヲ奏セザルノミナラズ又顯然タル化学性
ノ消毒羙モ尚未タ発明スルヲ(尚)ナシ 分十二(結列
阿曹篤)中毒ニハ蛋白、乳汁、(麪)花粉及ヒ水ナリ若シ
蛋白、乳汁等ヲ欠クニハ多量ノ水ヲ与フヲ良ト
ス」石炭酸即チ石炭油ノ結列阿曹篤ニシテ此解
毒羙ニハ「メチレス」及ヒ「カルベルト」氏ノ説ニ
阿利機油又蒽尸油ヲ消毒ノ良劑ト做セリ

麻酔性中毒症

阿片及ヒ阿性ノ尸酔羙ヲ内服
スル時ハ吐劑ヲ与フベシ即チ硫酸銅十仏、硫酸
亜鉛二十仏或ハ温水ノ多量ニ溶解スル吐根末
半食匕或ハ芥子半食匕ヲ用ユ再三之ヲ用ユレ
ハ必吐ヲ発ス若シ内服シ難キ時ハ胃ポンプ」ヲ
施スベシ此器械ハ柔軟ナル管ヲ以テ胃嚢ニ入
レ胃中ニ至リ水銃ニテ水半「ビイント」ヲ能ク注入

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号 特7-757
ガラス使用

シ胃中ヲ洗ヒ爾後之ヲ引出スベシ
阿片及ヒ莫爾比涅ノ消毒薬ニ莨菪丁幾二十滴
ヲ毎字用ユ、稠厚咖啡ヲ同法ニテ与ヘシニ方今
ニ至テ之ヲ賞スルヿ無シ、昏睡病ニ陥ントスルヲ
預防スル為ニ頭面ニ時々冷水ヲ灑キ強芥子泥
ヲ脊、上腹及ヒ腰部ニ貼スベシ若シ患者ニ適當
スレバ逍遙セシムベシ或ハ手若クハ濕ヒタル
手巾ニテ身体ヲ打ツモ亦良法ナリ
劇症ニハ越歴幾ヲ脊髄及ヒ胸部ニ屡々施スベ
シ若シ諸法効ヲ奏セザルトキハ瓦爾華尼穿孔法ヲ
用ユ此法ハ横膈膜筋力ヲ刺衝スル為ニソノ細
針ヲ横隔膜ニ達セシム其針ハ軟ニ錯拍シタル
鋼鉄ニ白金ヲ鍍シ美キ且滑ナル者ニシテ其尖
被針様ニナシ長サ三四「インチ」ナリ、又人工呼吸
ヲ用テ的當ノ症アリ
莨菪及ヒ亜篤魯比涅ノ中毒症ニハ阿片ヲ用ユ
ベシ、蔓陀羅華及ヒ菲沃斯中毒ニモ亦阿片ヲ良
トス

不分米大中毒

卒別難中毒症

（含水蔵酸）此中毒症ニハソノ毒
勢劇甚ニシテ消毒薬ヲ施スニ遑アラズ且未ダ確定

ノ良美ヲ得ズ英国化学家「スミット」氏ハ左ノ法ヲ賞用ス過格魯児化鉄水五十七滴ニ結晶第一硫酸鉄二十五仏ヲ和シ、第一酸化鉄一半塩類半弓許ヲ得ベキ程ノ水(ヲ加ヘ)如又ハ結晶炭酸曹達七十七仏ヲ水半弓許ヲ溶スモノヲ加ヘ(用ユ是)通常含水蔵酸百滴乃至二百滴ノ中毒ヲ消スルニ足レリ且消毒美ニハ初メ投用セシ液ト爾後又他液ヲ転シ与フルヲ宜トス「蔵鎌ノ中毒症ニハ第一酸化鉄一半塩類ヲ用ル等皆前法ニ同シ但曹達水ヲ投スルヿ無シ既ニ亜児加里ト抱合セシ含水蔵酸ニ曹達ヲ用ユレモ害ナクシテ曹達ノ七十七仏ニテ蔵鎌ノ三十五仏ヲ分析スル者トス

含水蔵酸中毒症ニ(水灌漑)散布シ、格魯児水及ヒ安母尼亜ヲ用ユルハ陳旧ノ治法ナリ

「雙蘭菊、實芝答利斯、失鳩答、麥奴、烟草、ロベリア、亜産蒜、葱芦、私的列幾尼涅、毒菌」ノ消毒美ヲ未タ撿出セズ此症ニハ急ニ吐劑ヲ与フベシ莨ヂ油ハ中毒最微ノ抑壓症ニ良トス「雙蘭菊、ロベリア、烟草ハ有刀ノ身体沈降美ナリ」獣骨炭ハ毒物ヲ吸収スルガ故ニ一食ヒ宛再三与フルヲ宜トス私

的刻幾尼涅又ハ番木鼈ヨリ来ル痙攣症ニハ嗎
囉啡吸入法ヲ良トス、雙蘭菊、ロベリヤ、烟草、實芠
荅利私、及ヒ亜産蒜蒸芦ノ中毒ニハ「ブランビー」
或ハ「ウイスキー」酒ヲ刺衝美トメ飲服セシムベ
シ

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757
ガラス使用

動物中毒

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号 特7-757

ガラス使用

○大腹皮　繆氏曰大腹皮、即檳榔之皮也、鴆鳥多毒、背棲檳榔樹上、凡用大腹皮、宜先洗去黑水、再以酒洗晒乾用

本草彙言

鴆

番禺陶蓮生蕺才克勤與女録事小姑享姬不索其值而失以身從陶輒支吾其詞姬竟飲鴆死葬廣州城北小西竺山好事者每携清酒酹其墓番禺許青墨茂才鑲春游句云日斜斜不見真娘墓踏遍萋萋野燒痕即指此事

桐陰清話　巻五

ヲ煎調フルニ前夜該魚肉ノ新鮮ナルモノ仏三十匁許ヲ煮而三
日朝飯ノ時ニ豆入蒸飯ト共ニ之ヲ食シ（為吉最多ノ妻
之ニ次キ児最少シ）タルニ同日午前十時頃為吉ハ他行中ヨ
リ腹痛劇甚腹満且吐瀉ヲ発シ手足痺拘急厥冷
口中煩渇脱汗煩燥シ吃逆甚シク小便不通挽骨動脈
已ニ絶シ妻ハ将ニ絶エントスルノ症候ヲ呈シ同地醫師ノ治
療ヲ請ヒタリ是ニ於テ醫師ハ先ツ妻児（児ハ中毒稍軽ク

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号 特7-757
ガラス使用

中毒 魚毒

○中毒患者 高知縣幡告 高知縣香美郡赤岡村平民濱田爲吉（四十九年七月）全人妻春（四十年一月）兒勉吉（六年九月）ノ三人ハ去ル七月廿七日「ヒラ」ト称スル魚ヲ食シ中毒症ヲ發セリ今其顛末ヲ記スレハ前夜該魚肉ノ新鮮ナルモノ仁三十匁許ヲ煮而シテ之ヲ食シ（爲吉最多ク妻ハ其次キ兒最少シ）タルニ同日午前十時頃爲吉ハ他行中ヨリ腹痛劇甚腹滿且吐瀉ヲ發シ手足痲痺拘急厥冷口中煩渇脱汗煩燥シ吃逆甚シク不通撓骨動脉已ニ絶シ妻ハ將ニ絶エントスルノ症候ヲ呈シ同地醫師ノ治療ヲ請ヒタリ是ニ於テ醫師ハ先ツ妻兒（兒ハ中毒稍輕ク

唯腹痛腹満乾嘔スルノミ）ニ投スルニ吐根酒石酸等ヲ
以テシ妻ハ其ノ薬効ナキニ因リ更ニ羽毛ヲ以テ咽喉ヲ摩擦シ
快吐ヲ得ルノ後衝動鎮痙ノタメ麝香龍脳阿片芳香
硇砂精複方桂丁幾干姜丁幾「コロタイン」塩酸規尼「ブランチ
ー」芥子泥等ノ諸剤ヲ用ヒ漸次軽快廿九日ヲ以テ全治シ
爲吉ハ已ニ吐瀉数十行ニシテ前文ノ容體ナルニ因リ専ラ衝
動鎮痙剤ヲヲ投シ翌廿八日午後十一時頃ヨリ脉少シク見レ
同廿九日手足始メテ温気ヲ生シ吃逆鎮静シテ軽快ヲ得タリ
右魚ノ形状ハ腹色及骨等鱓ニ類シテ鱗ナク背ハ赤黒色ヲ帯
ヒ鼻尖リテ兜ノ吹返シノ如ク彎曲シ其量目三十貫目位ヨリ六

百貫目餘ニ至ルモノアリ然レトモ概子肥料ニ充テ食用ニ供ス
ルモノニ非ス而シテ従前此魚ノ為ニ中毒セシ者ノ有無ヲ
検スルニ多食スレハ此ノ如キ劇症ヲ発スルモ寡食スル時ハ
唯腹痛下痢ニ止ルト云フ　明治十七年九月八日　官報

イシナギノ中毒説

此節ヨリ今朝ヘカケ魚商五六名ニ聞合候処イシナギニ
毒アリト云フコトハ七八十年以前ノ昔物語ニテ近年曾テ
中毒アルヲ聞ス何ノ頃ニヤシラズ昔シ或人イシナギノ肝腸
ヲ食シテ頭髪（ノケ）不残ヌケタリトテ云フ依テ爾来肝腸ヲ食フ時ハ
酔フコトアリト云リ然ルニ近年ハイシナギ中毒ヲ云フモノナキ
ノミナラズ會席等ニテ鯛ノ代用ニサシミニ用ヒテリヤキ
吸物ウシヲ塩焼蒸肴等々ノ割烹ニ用フルヲ以テ賞モ
[illegible]

不審ナリトミヘリ
○ここノ割烹書ニ鰹、カマボコ等ニ用ルトアリ
今此レヲ試ル處ハ急行商売リニヲシテ イヽナギニ
毒アルヿヲ知ルヤ否ヤ問ヘハ曾テ知ラズトミヘリ此年ハ
イヽナギ澤山ニテトレタリマグロノ多キ時ハ廉價ナリト
云リ本ノ説ニヨレバ東京市中ノ割烹店ニテイヽ
ナギヲ用ヒザルハナシ然ルニ之ヲ食ヒテ何ナルヲ知ラズ
故人昔ニ云ヘ[illegible]醤莫ニ入ルヿアルヤ知ルベカラズ

十七年五月八日朝　[illegible]

解斑猫芫青毒 饒芫音
用猪膏大豆汁或塩藍汁服之或用塩湯煮猪膏巴
豆飲之 又或用大小黒豆汁服之並瘥用肥皂水灌下
再以鵝翎絞喉数次令吐即活
増註洗冤録 坤巴
又方用生鶏鴨卵開孔灌入口中連灌五六枚得吐即活倘閉以箸抉開灌入

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757
ガラス使用

文化年中豆州三津長濱ト云浦辺ニ河豚魚多ク聚リ漁人ノ
捕得テ砂上ニ積ムト雖モ丘陵ノ如シ時ニ梅雨ノ候ナリシ故
鴉シキリニ村里ノ民家ニ来ル小燕子ヲ掴ミ喰フ土人不思
議ニ思ヒシニ竹田玄順ト云医燕子ノ臭毒ヲ解ト云ヲ知テ
此必為鴉ノ河豚ヲ過食セ毒ヲ解サンカ為ニ燕子ヲ取リ
喰フナラント悟リ造化自然ノ妙ヲ感ジタリトソ予此ヲ
ク沼津ノ人鈴木三五郎ヨリ聞ク按ニ本州綱目ニ燕解ニ
諸毒又解ス炎毒ト記ス然ハ臭毒ニモ功アラン其後松魚ナ
ドニ酔者ニ燕屎ヲ以許ヲ水服セシムルニ瀉下ス解スル
ヿ速ナリ蛮渓筆談医説ナドニ蜘蛛ノ蜂ニ螫レテ竿
梗ノ嗤ミ虎ノ毒箭ニ当リテ蒼花ヲ食ヒ癒傷ヲ
被テ地黄葉ヲ貼セシヿナド有テ鳥獣昆虫ト雖モ自
然ニ解毒ヲ知ヿ不思議トニベシ　全

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号 特7-757
ガラス使用

〔註〕薺苨又名甜桔梗何南人呼為杏葉沙參飲酒中毒經日不醒者用
黒豆一升煮取汁温服一小杯不過三次即愈 増註集證洗寃録 坤

〔治〕蟲毒及金蠶蠱

泉州一僧能治金蠶蠱毒如中毒者。先以白礬末令嘗不澁覺味甘。次食黒
豆不腥。乃中毒也即濃煎石榴皮根飲之下。即吐出蟲皆活。無不愈者。李晦
之云。凡中毒以白礬芽茶搗為末。冷水飲之。即愈。

〔註〕治蠱毒用元蓁根搗汁生汁和酒飲之立下

保靈丹 治蠱毒諸毒一切藥毒

大山豆根 両半　雄黄　硃砂 淨一両細研　黄藥子　黄丹
麝香　斑猫 二錢半去頭足　糯米 半升生炒　赤蜈蚣 二條一生一炙　川巴豆 肥者取肉不去油二錢半

續隨子 生杵去 一錢半
右薬入乳鉢研和千蹋午重陽臘日脩合宜避婦人及雞犬用糯米湯和
丸如龍眼核大陰乾磁合收每一丸好茶清吞下不得嚼破須臾毒物下
薬丸凝血並下以水淨收可救三人
治諸蠱毒用鰻鱺魚乾末空心服之魚或燒炙令香食之其魚有五色文者
佳
誌云嶺南俚人解蠱毒畏人知其方乃詭言三百頭牛薬或云三百兩銀
薬久與親狎始得其實所云三百頭牛薬者土常山也三百兩銀薬者馬
兜鈴也俱用之水煎服即愈
福清縣有訟遣金蠶毒者縣令治之不得蹤或獻謀取兩刺蝟入捕必獲
蝟獸類遍身有刺如栗房蓋即山中之刺掌也金蠶畏蝟蝟入其家金蠶
不敢動匿榻下墻罅尽為兩刺蝟擒出之

增註集證洗冤録　坤

蜜鮓併食毒
韶州月華寺側民家設僧供新蜜方熟群僧飽之有某院長老兩人還至字
道過村墟賣鮓買食盡半斤至夕皆死

增註集證洗冤録　坤

清平道中

金蠶作蠱散如煙山甲花開間野棉細雨遠尋蝴蝶
路新涼初報鷓鴣天（上下畧之）

查浦詩鈔 卷一

治蠱毒及金蠶蜈蚣（註）

（上畧）福清縣有訟簡金蠶毒者縣令治之不得蹤跡
或謀取兩刺腹蟲之人捕必獲腹獸類遍身有刺如栗房
蓋即山中之刺鼠也金蠶畏腹蟲腹蟲人其家金蠶又敢
動雖置櫚下墻鏬盡為兩刺腹蟲擒出之。

增註洗冤錄 坤四

○毒蛇飯ヒ倩撲殺頭數及被害人比較增減 鹿児島縣下
大島郡ニ於テ撲殺シタル毒蛇飯ヒ倩ノ頭數並ニ被害人員ヲ
一昨十七年中ノ員數ト比較スルニ撲殺頭數八大島ヨ
於テ千三百四十二頭德之島ニ於テ百三十五頭ヲ増加シ卵モ同年
大島ニ於テ四十箇德之島ニ於テ五十三箇増加セリ然ルニ
被害人及死亡人等ハ格別減少シ十八年大島ニ於ハ被人百五
人ヲ死亡人三十人ヲ減少シ德之島ニ於テハ被害人六十九人死モ
二人ヲ減少セリ斯ク十八年ニ撲殺頭數並ニ卵ノ増加シタルモノ
ハ自然飯ヒ倩ノ前年ヨリモ夥多生殖シタル故ナルヘキモ被

害人ノ減少シタル八島民ニ於テ此上ナキ幸ナリ仍リテ今左ニ德之島ノ飯七借及卯撲殺頭数被害人員比較ヲ掲ク

	大島		德之島	
飯七借	十七年 五三八頭 一岡	十八年 増減 一三四二	十七年 二二〇九	十八年 一三四四 一三五
同卯	四五四	四〇	一九八	二九一 五三
被害人	一七二	六七 二〇五	一〇三	三四 六九

明治十九年九月二十九日

官報

治蛇傷

毒蛇能斃人惟急以利刀割去所噛之肉可以漸解

増註洗冤録 坤 ■巳

唐津明リ話 ツヽカノ疾ニ付生ヱヤ細
壱ツ四年計アリテ人ニサワレハ鍼ノ折レ入ルカ如ク計リニセンサン
ヲ合山ニ水鉢ノ中ヘ入レ冷水ヲ通ル
切ソ蒸シカカセイ刺リヲ取ル

ブリ毒

○ブリ中毒　曽氏話
十八年計前ノコトカ大阪ノ人戎橋同勤
ツヾ九氏宅ニテブリヲ食シ皆中リタリ皆面赤ク気分悪シ
頭痛吐瀉ハさシ、又腹痛モなし　翌日ニハマダ不快
全身肌膚剥脱ス
○豊前ニテモブリヲ食ヒ中毒ス　腸ヲモ食ヒ
数人死 腹痛吐瀉アリ　甚キハ腹痛ハ
甚熱ス 強ヅブリニ非ズ
右ニ症モ肉ハ不食 腸斗リ食ヒ

ブリ毒

ブリノ臓腑ヲ食ヘハ往々ソノ毒ニ中ルモノアリ輕キハ面色赤ク或ハ全身懊憹痒ヲ發シ甚シキハ精神昏瞶シ酔ルカ如ク甚シキハ吐瀉腹痛發熱等ノ諸症ヲ發ス

海老の中毒

品川歩行新宿の漁夫村田元次郎(四十三年)は去月二十八日の夜品川の沖合にて釣り得たる海老を翌日天麩羅として食ひ且二合ばかりの酒を呑みたりしが直ちに腹痛を始め一昨四日まで苦しみ通しにて終に死去したる旨其筋へ届け出たり右は全く海老の中毒なりと

右 郵便報知新聞 明治廿年十月六日

河豚開寶

釋名 鯸鮧一作鯸鮐 鰗鮧日華 鯢魚一作鮭 嗔魚拾遺

吹壯魚俗名 氣包魚同上 鯆魚北山經

和名布虜即布久流々之下略也此魚觸物一忽膨張故名乃氣包魚之意也馬志曰河豚江淮河海皆有之

今按此邦無河産如其說乃此方礒河豚類也故為

河豚

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757

ガラス使用

東京日々新聞
明治廿七年十月廿
蜆貝の中毒

○蜆貝の中毒　此程伊勢國度會郡宇治山田大字一の木町に於て木田勘八外五名蜆貝を食したるに毒に中りて内二名は遂に死亡したり從來蜆貝は各地とも食用に供して疑はざるのみならず夏向は反つて滋養ありとて嗜好するものなるに同一の場所より採取せしものに此く多數の中毒者を出したるは固有の毒性なるか將た他より毒性を吸收せしに依るか何分疑はしとて三重縣廳にては殘餘の蜆貝を添へ内務省衛生局に其試驗を依頼し越したる由

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号 特7-757
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号　特7-757

ガラス使用

特 7
757

植物中毒

漢方
洋方 参考

○中毒集説

鑛物毒 硫黄 水銀
動物毒(獣)、 [illegible]
(魚)河豚 (鳥)[illegible]

国立国会図書館 タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757
ガラス使用

特7-757

帝國圖書館

特7
757

○愛知縣丹羽郡豊田村ノ男児一人ハ昨年十月三十一日小學校ニ到ルノ途次椶子二十粒許ヲ食セシニ忽チ中毒ノ狀ヲ見ハシ初メ惡心嘔吐シ續キテ失氣絕脈頭部熱シテ冷汗ヲ發スル等ノ諸症ヲ來タシ、ヲ幸ニ醫療ノ効ヲ得テ漸快治ニ赴ケリ（愛知縣報告）

今此椶子毒ニ付文部省ヨリノ意見ヲ揭ケントスルニ又椶莽草ハ灌水ニシテ通常墳墓ニ供シ世人ノ普ク知ルモノナレ共此實ハ異常ノ毒アルヲ辨セス誤リテ之ヲ噉ミ終ニ死セルモノ古來往々少カラス最戒ムヘキ者トス其症タル十四肢痙攣シ暴吐劇瀉シ苦悶ニ堪ヘス終ニ斃ル其ノ詳說ハ有害植物集說ニ記載ス即官報第五百二号ニ

登載シタリ

明治十九年二月十二日

官報

○山蘇鐵中毒（群馬縣報告）群馬縣下上野國
利根郡岩本村三十三番地生方助右衛門（五十三年）
ハ去月三十日六男徳太郎ノ採取シ来リシ山ソテツ
ト称スル植物ノ根（形状甘薯ニ似タル）ヲ食セシニ忽チ中毒
ニ罹リ医療ノ功ナク身体腫脹シ同日
死亡シタリ
ナリ[illegible]
オ[illegible]物ニ[illegible]

小野一郎云田中芳男君此品ヲ取調ヘラレシニドクゼリナリシト

○中毒 仙臺新 河原町の西村文右衛門の長男文治郎（三年七ヶ月）
と長女お律（七年）の兩人ハ去る九日連立ちて遊ひをる時
河原ウツギの實を食して四時間も經て後ち苦（くるし）み出し
文治郎ハ遂に命を失しお律ハ療治中又豊後国北海
部郡佐志生村の梅田といふ家でハ先月六日の夜食の菜に
鰒（はまち）魚を刺身或ハ味噌汁と以て丁子根と之を混て煮たるを
家内七名が食盡しゝに夜なかより友市（三十年五ヶ月）とお七（十四年二ヶ月）
姉弟か頓に熱を發し又寒氣を催し寒熱交ゞ至りて
悶へ苦しみ夕に食しものハ皆吐又ハ瀉して ますます烈しく

国立国会図書館 タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757

ガラス使用

翌朝ま至り戸全の利衛六年五ケ月祖母お春九拾弐年母お八重
姉お豊同居人佐土原妻の五人が同じく苦しみ出し同夜
半終ま死し他ハ二三日を経て全快したるとぞ是だが
毎度〆食物ま心氣と注ゐ事てあります

明治十八年七月廿五日　繪入新聞

毒

〇中毒　三重縣北牟婁郡錦浦ノ男女六人ハ昨年九月二十九日
同郡宇藁濱郡ニ於テ「ハヘトリダケ」ト称スル一種ノ菌ヲ採リ蔕子
及味噌ニ混シ喫飯ノ際併食セシニ孰一時間ヲ經テ氣分
異変ヲ生シ一時發狂セルカ如ク錯語ヲ発シ暫時ニシテ
全身麻痺手足厥冷體色青白ニ変シテロヨリ黄泡沫ヲ
吹出シ此内女二人ハ即日死亡セリ（三重縣報告）

今此ノ毒菌ニ付キ文部省ヨリ意見ヲ掲クルモノ左ノ如シ

「ハヘコロレ」又「ハヘトリダケ」「ハヘタケハ」諸國山林ニ産シ間ゝ竹林
中ニモ生ス其蓋ハ白色或ハ灰色ニシテ滑ナルアリ或ハ米粒
ヲ撒布スル如キ状ヲナスモノアリ是毒菌ニシテ誤リテ之
ヲ食ヘハ其暴劇ナルハ即死スルモノアリ最恐ルヘキ者トス

有毒植物

[illegible]

其症タルヤ忽煩悶発狂ノ状ヲナシ或ハ舞踏スルモノアリ故ニ丸剤ニテ「オドリナバ」ノ異名アリ或ハ麻痺昏睡スルモアリ両三日間遂死スルアリ輕症ハ爾後漸ク治スルアリ文部省官刻日本産物志武蔵部ニ其圖説ヲ詳載シタリ

明治十九年二月十二日　官報

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757
ガラス使用

ケシ
○罌粟殻中毒（三重県報告）三重県伊勢国飯野郡
西黒部村平民農某之助長男大泉作次郎当三年ハ昨年ニ
咳嗽ヲ患ヒシニ作次郎ノ乳母偶々罌粟殻煎汁ノ該
病ニ特効アルト聞キ去ル四月三十日罌粟殻少許ヲ採
求シ之ニ氷砂糖少許ヲ混シ水五勺ヲ以テ煎沸シ其半
量ヲ与ヘシモ幾ナク顔貌蒼白色ヲ呈シ瞳孔縮小シ
脈搏微細指頭ニ厥冷シ呼吸衰微シ顎下拘攣ヲ発シ
二時間ヲ経テ終ニ死亡シタリ　十六年六月　報

草藥夾雜毒章

吳州僧某往州南三十里掃塔有客船自蕃舄至舟中土人携一僕僕病腳弱不能行舟師憫之曰君有一藥治此病如神既賓朝畢飲脂顧頭醉乃入山求藥獲酒橙病者其藥入口腸胃即瘥如刀割割歷明而死土人咎舟師忘即取所餘藥自漬酒服之不踰時亦死蓋山多斷腹草人食之輒死而舟師所取藥為根蔓所纏結醉不服擇徑投酒中是以及於禍則知草藥不可忘服也

增注集證洗冤錄 坤

同荊已
断腸山芙蓉ハ名

解斷腸草毒（此症治得須或救生）

断腸草ハ鈎吻ノ名

此草有大毒而肆加服其葉者不過一二日肉即消化急用活羊血灌三碗即活最有神妙有人以此草放豬尿胞內草自走動胞漸漸薄後以羊血灌入即不動矣或服羊油二三兩亦妙此草惟羊食之最肥故飲羊油羊血即解

驗方新編

附解斷腸草方

先用鴨蛋三個將服毒人扶正攑開牙關剝開蛋殼成個灌下三個待蛋人胃裏住毒草次用猪膏鎔溶化溫和灌下一盞碗後又用黄豆一小升箏雞一隻不論雌雄連毛帶腸同豆搗爛用清水一盞碗泡入雞内布袋濾去渣取汁灌下其毒即吐。即用草菌探喉或用女人頭髮髻子探喉鵞翎亦可毒吐即愈其毒在胃者可治入腸者難治。

錄第七之飲物

解射罔毒

用甘草汁或小豆葉浮萍薺苨汁冷水解之（薺苨又名胡桔）

按河南人呼為杏葉是沙參能解百藥毒

增註洗冤錄　坤四

解飲饌毒

凡中飲饌毒不知何物即煎甘草薺苨湯飲之便治

增註洗冤錄　坤四

中毒

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757
ガラス使用

毒茸ワタリ

ワタリ

今昔物語巻廿 金峯山別当食毒茸不酔語

今ハむかし金峯山の別当にてありける老僧ありけり昔ハ
別当ハ山の一﨟をもちひける近比ハなし事なき年ごろ
一﨟の老僧別当するに次﨟の僧ありて此別当
我別当にならんと思ふがしりぞも死ず二﨟の僧
なかせし別当が年ハ八十にあまりぬれども死ずやくし
しく今ハよと死ぬべき脇もなくて我年も七十になり
ぬれバ別当になるべくもなきにされバころさんと思ふ事も
あれバ此別当ハ殺す人をおもへども僧都といふし
けれバ毒茸を食はせころさばとおもひて人
ごとに必死といふる和太利といふ茸をとりて山中

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757
ガラス使用

天平山僧得蕈一叢煮食之大吐内三人
取鴛鴦草生啖之遂愈二人不啖者死鴛
鴦草乃藤蔓而生黄白花對開治癰疽
腫毒尤妙或服或敷皆可蓋沈存中良方
所載忍冬即金銀花也又名老翁鬚本草名
先方伯贈尚書府君屢以此方療人名鷺
鷥藤又名金釵股

香祖筆記 巻十一

菌毒

○東京日々新聞 九年十一月十七日

菌中毒 常陸國那珂郡部村ノ
若者等先月一日同村大字寺ノ流
集所ニ帰宿シテ間ヤ夕八月同村ノ
守府内ノ樫ノ朽木ニ生シタル菌ヲ
言月夜モリト称フヲ採リテ肴トシテ酒ニ之
坐ニ居合セシ四名ハ一人モ残ラズ同ク煩

毒菌

細井平洲ノ小話ニ云
生来右桐生丈右隣人得菌
烹食之須臾痛笑笑不已
云々

毒

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号　特7-757

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757

ガラス使用

○烏頭の中毒　羽前国東置賜郡二井宿村の農結城萬四郎の妻トメ三十三ハ此程同村の字片見と云ふ所より至り野苅蕎麥草籠と楠來りて翌朝々飯の菜まで胡麻よごしにせし所へ同村の高梨茂七高橋丈弥島津亀藏の三人の來合せたるまゝ馳走して四人まで食し畢り丈より農業ゟ出人とせしまゝ歸れも同時此より腹痛を催し果ハ胸腹共ゟ張り裂るだかりよ痛み七顛八倒苦を為そより谷家まてハ仰天し夫々醫師を招きて手當せしに茂七丈弥とめの三人ハ

○烏頭

幸くも命を拾ひ亀藏の一人ハ遂ゟ死去セしが後ゟて其食餘を檢もとめ中ゟ烏頭の混入ありを發見したりと田舎ありどまてハ名も知れぬ草を摘來りて食するを常とするハ宜しからざる事ゟこそ

明治十九年　五月廿二日　朝野新聞

○草烏頭毒江右山南有二草烏頭其汁煎之名射岡倶大有熱毒而射岡更烈塗破傷損處立能殺人

按倶字ハ生ノ草烏ヲ刻キテ之ヲ傷ニ敷

○群馬縣上野國多比良村小柏廣吉(四十年)妻イサ(四十三年)長男茂十郎(十五年)ハ平素胸痛ヲ患フレヲ以テ之ヲ治センカタメ本月三日午前七時頃、山牛蒡(方言ヤマゴボウ)根ノ搾汁ヲ服用セしカ忽チ中毒ニ罹リ茂十郎ハ翌四日死亡セし外二名ハ目下治療中ナリ(群馬縣報告)

明治十七年二月二十日　官報

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号 特7-757　ガラス使用

○密柑の毒　或方の説に近来密柑に毒ありて小児よ食さ
せぬ人あるは至極宜し又食させても膜皮(あまかわ)を去らしめ全
くの實と水分とのみ小限るとするも宜し決して膜皮のま
ゝ食さすべからず一体密柑は消化機の十分ある壮者ゆ
食して宜きものなれど是とて膜皮は食をへかす小児七歳
以下を専らとすが密柑と食ること度を過れば下痢を
起し蛔虫小便の辟つき尚翌年の夏氣ふ小児痩労るい是も
密柑の毒殘まるより生ずるあり又老人いつとめて食さぬ
様よろう肝要あり又密柑を火ふあぶりて食るい種々
の病と醸を原とあるものと語(かた)りまし(ま)たるよし

明治十八年十一月廿二日　繪入新聞

中鼠莽毒江北南有之亦類中蠱毒加之脣裂
齒縫青黒色此毒經一宿一日方見九竅有
血出〔注〕莽草本作网人以毒鼠故名鼠莽
食之令人迷悶南中川蜀以及土谷皆有之
木若石楠葉稀無花一説藤生繞石間是
名网草 已上洗冤録巻三
按ニ莽草ハ之乎之 但物図目部也 葛莽ヲ莽ノ名ニ呼フ

〔解鼠莽毒〕
黒豆汁可解〇又方。用枯連房殻蔕葉梗陰乾咬咀煎水二三碗灌之如無
用荷葉中心蔕或用藕節煎湯一碗温令灌之毒即散。
〔註〕莽草以黒豆汁澆其根雲爛

増註集證洗寃録　坤

〇中莨音郎菪音蕩毒悶亂如酔中風或似熱
盛狂病〔註〕一名水莨菪葉圓而光誤食令人
狂乱或吐血〔洗寃録巻三〕

〇莨菪毒　日本産物誌ニ詳載[illegible]り

〇莨菪

添カ

櫁子中毒

尾張国丹羽郡豊田村社本信右エ門男鉄治郎九年十ケ月ナル者客月三十一日午前七時后小学校登校ノ途次櫁子二十粒許ヲ食セリ而メ仝十時比ヨリ中毒ノ症状ヲ見ハシ初メ悪心嘔吐シ續テ失氣絶脈頭部熱シ冷汗ヲ発スル等ノ諸症ヲ来タシ夫ヨリ医師ノ診治ヲ得テ午後十時ニ到リ漸ク快服ニ赴クト云フ其他十歳未満ノ児童ニシテ仝時仝毒物ヲ多キハ十一二粒少キハ二三粒ヲ食スルモノ九名アリ各一時中毒スルモ幸ヒニ皆軽症ニシテ少時快服ストス云

右説十八年十二月廿二日文部省報告課ノ増山守正氏協参シテ第四十五号[illegible]ニテ[illegible]ヲ出ス

○蕈中毒　福島縣報告　福島縣岩代国安積郡野田村平民相原「アキ」
（二十七年六月）同「タケ」（五年六月）ハ本月五日南瓜茄ト方言ヲラリト称スル
蕈（外色黯紫褐色中身ハ淡紅色ヲ帯ビ煮ルニ従ヒ滑液ヲ外部ニ纏ヘリ）ヲ混煮シテ之ヲ食シタルニ「タケ」ハ食後
十二時間ニシテ俄然發熱シ暫時ニシテ熱減シ顔面白色脈度細小
呼吸不利嘔吐ヲ發シ瞳孔散大少シク結膜ニ充血ヲ帯ビ皮膚厥冷筋
肉弛緩全身痙攣ヲ發シ譫語シテ人事ヲ辨セス昏睡甚シク四時
間ニシテ死亡シ「アキ」ハ食後二十四時間俄然頭痛眩暈胃痛嘔吐ヲ
發シ顔面蒼白瞳孔散大皮膚厥冷脈搏頻少呼吸不利全身ニ
冷汗ヲ帯ビ譫語失神シ全身筋肉弛緩四時間ニシテ死亡シタリ但シ
「ヲラリ」蕈ニ似テ少シク形色ヲ異ニシ其名ヲ知ラサルモノニ個程混シ居
タリ

明治十七年十月二十七日　官報

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757
ガラス使用

解中阿片毒方五千劑墨児書一千百九十七鞆

此毒ニ中ルノ患ハ油（オトー）ヲ阿礼襪也ヲ飲ミメテ吐ヲ取ルベシ

又水銃道ヲ法ヲ施スベシ或カストレウム 海獾乳藥也ヲ未ヲ其詳ナルコハ考ヘズ

一戈葡萄酒中ニ和シ與フ又屢ゝ葡萄酒ヲ飲ミムレハ功アリ

又其内ニカストレウム」ト胡椒ヲ加ヘ煮和シ用テ効アリ又或人ノ經驗ニハイヲト」也エルレボリユス（羅甸エルレボリユム アルビユム」

和蘭ハイヲトニースコロイト」一名ヘウレホリアルビ和蘭ハイヲテニースヨヲルテル」黒白二品アリ黒キ方ハイケイ艸欤コニ用ルハ白キ方ヨリ「ハヲイヲ」ノ二百三十九葉ニ出ツ他日考究スベシ」ノ細末ヲ

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号 特7-757

ガラス使用

嗅シメ噎ヲ取リテ功アリトイフ又其餘噴嚏ヲ取ル散茱萸
中ヲ擇用テ佳ナリ又 的里亜加ヲ與ヘ或ハ酒ヲ多ク与フレ
ハ昏睡ヲ覚ストイフ
ポムペウス人名 一奇方 二竹圃
乾「ノーテン」 肉荳蔻 同
平
無花果 二十葉
芸香
右共ニ為末塩三分三厘強ヲ加ヘ早朝空腹ノ時飲
シムレハ能其毒ヲ解ス又兼テ疫毒ヲ解メ大功アリト
イフ云々下略
辛酉六月十日譯

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』　請求記号 特7-757
ガラス使用

特7
757

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[中毒集説稿]』 請求記号 特7-757

ガラス使用